

平成28年度

信州大学大学院
人文科学研究科修士課程

学生募集要項

社会人特別選抜
《前期日程，後期日程》



信州大学大学院入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

1 求める学生像

信州の悠久の歴史と文化，豊かな自然環境のもと，地域に根ざし世界に開かれた信州大学大学院は，総合大学の特色を生かし，国の活力を高める次世代を担う卓越した人材や世界的な視点で新たな価値を創造する質の高いグローバルな高度専門職業人の養成を目指しています。そのため，以下のような能力や意欲を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- ・幅広い教養と専攻する分野の専門知識を持ち，さらに高度な専門的知識・専門応用能力を修得したい人
- ・知的好奇心が旺盛で，専門的課題や地域社会の抱える課題に主体的に取り組む人
- ・深い知性，論理的な思考力，豊かな人間性を備え，様々な分野でリーダーシップを発揮し，活躍したい人
- ・社会・環境・国際問題に関心をもち，創造力を活かし，グローバルに活躍したい人
- ・職業経験から獲得した知識・技能を高度化，深化させたい人

2 入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り，各研究科の特性に応じた公正かつ適切な方法で入試を実施し，大学院教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に評価します。

信州大学大学院学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学大学院では、俯瞰力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材を養成するために、以下のように各課程の学位授与方針を定める。

修士課程にあつては、広い視野に立って精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得している。

博士課程にあつては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得している。

専門職学位課程にあつては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得している。

信州大学大学院人文科学研究科の教育目標

現実の社会に働きかける、のびやかで生き生きとした知の力である「実践知」を基盤として、それを「知の方法」に展開させることを目標としています。

「知の方法」とは、高度な論理的思考と科学的分析によって、混迷し錯綜する諸問題の根元を解明し、創造的な指針を得る方法です。「知の方法」を得た人材は、あらゆる科学や応用技術を支えるもっとも基本的かつ実践的基盤である、柔軟な認識能力・多角的分析能力・豊かな表現力を身につけることとなりますので、進学先・就職先その他社会生活においても、それを活かして活躍していくことが期待されます。

「知の方法」は、下記の諸目標を達成していくことで身につくものであると本研究科では考えています。よって、本研究科では、各自の専門性を高めることをねらいながらも、同時にこれらの目標を達成する方策を教育課程の全ての面で意識的に組み込んでいます。

1. 問題発見能力を高める

大学院生それぞれが関心を抱く問題に内在する諸要因を、人文社会科学の視点に基づいて探求し、柔軟な感性と創造的な論考によってさらなる学問的課題を発見する能力を得る。

2. 問題分析能力を高める

論理的分析や経験科学的分析の方法を修得し、過去の諸理論や知見を検索・参照することで、問題を客観的・学問的に解明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を高める。

3. 表現能力を高める

自らの発見を言語や身体で表現するだけでなく、表現自体を洗練されたものにする訓練を通じて、学問的普遍性と実践的価値をさらに高いものとする。

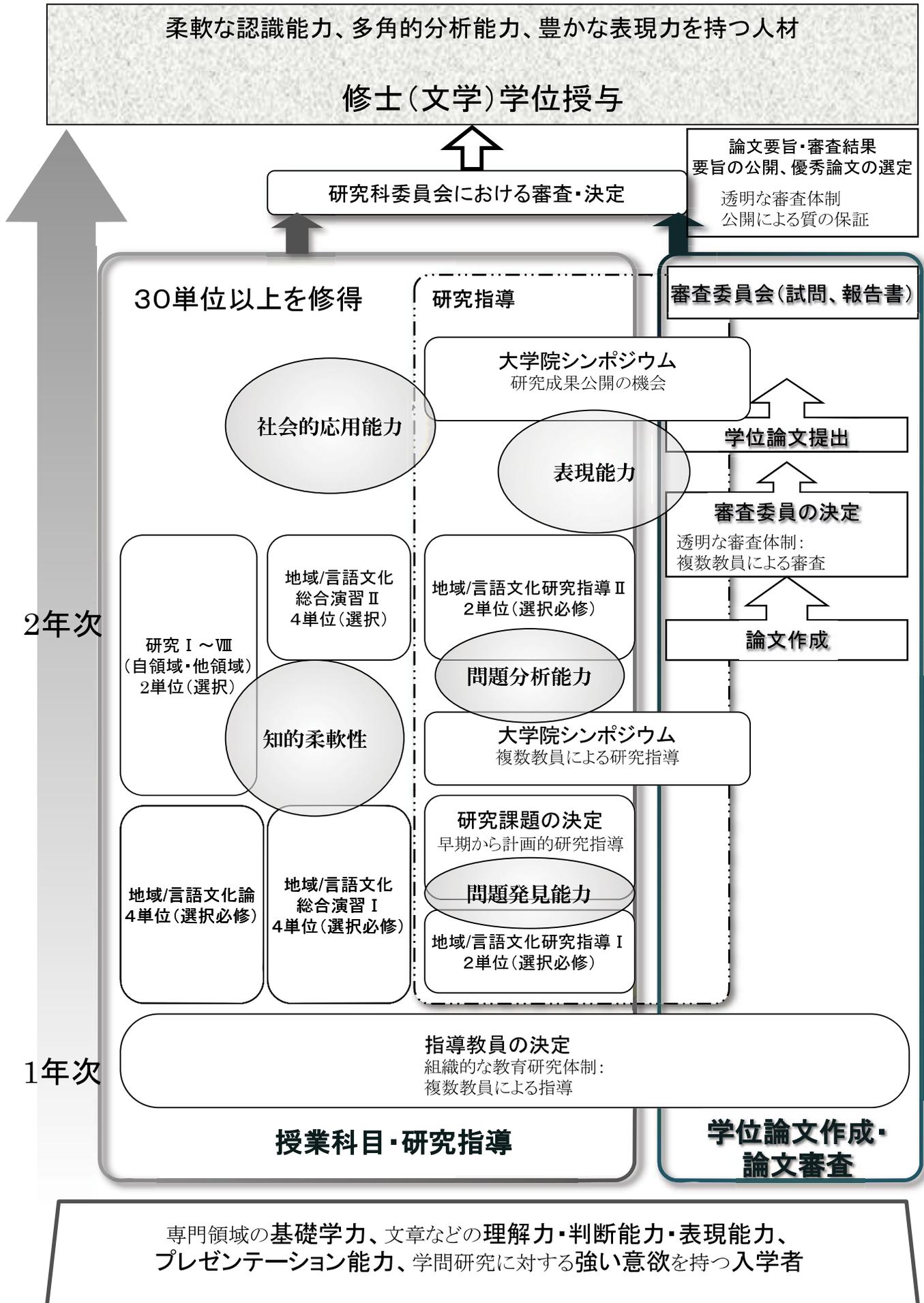
4. 社会的応用能力を高める

問題を学問的に解明し表現する作業を通じて、現実社会の諸問題を解決する方法や能力を身につける。

5. 知的柔軟性を高める

複雑多様化する現代社会のあらゆる局面に批判的、創造的に対応できる知的柔軟性を高める。

人文科学研究科履修プロセス概念図



1. 社会人選抜について

- (1) 本研究科は、大学院設置基準第14条（「修士課程においては、教育上特別の必要がある場合には、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。」）に基づいて、社会人の受け入れのために社会人特別選抜を実施します。
- (2) 社会人特別選抜による入学者は、修士課程に必要な30単位を2年間にわたって、夜間その他特定の時間又は時期における授業によって修得することができます。
- (3) 社会人特別選抜による入学者の事情が許す場合には、修了に必要な単位を昼間の授業によって修得できます。
- (4) 職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望した場合は、長期にわたる教育課程の履修を認めることができます。希望がある場合は、入学手続き時に申請を行い、4年を限度に許可します。

2. 募集専攻及び募集人員

専攻	専門領域	募集人員 (前期と後期の合計)
地域文化専攻	哲学・思想論, 心理学, 社会心理学, 社会学, 文化情報論, 日本史, 地域文化史, 世界史	若干人
言語文化専攻	日本文学, 日本語学・日本語教育学, 中国語学・中国文学, 比較文学, ドイツ語学・ドイツ文学, フランス語学・フランス文学, 英語学・英米文学, 芸術コミュニケーション	若干人

※各専門領域の内容、所属教員等につきましては、ホームページ等で確認してください。

3. 出願資格

- (イ) 平成28年4月1日現在満25歳以上の方
- (ロ) 平成28年4月1日現在満25歳未満であるが、出願時に定職についている方
- (ハ) 勤務先から在職のまま派遣され、勤務先の代表者の承諾を得られる方

上記のいずれかに該当し、かつ下記の(1)～(6)の各号のいずれかの資格を満たす方

- (1) 大学を卒業した方
- (2) 学校教育法第104条第4項の規定により、学士の学位を授与された方又は平成28年3月までに学士の学位を授与される見込みの方
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した方
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した方
- (5) 文部科学大臣の指定した方（昭和28年文部省告示第5号参照）
- (6) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した方と同等以上の学力があると認めた方で、平成28年3月31日までに22歳に達する方

※ 外国人留学生（外国において学校教育の課程を修了した外国人）は、一般選抜後期日程（私費外国人留学生を含む。）に出願してください。

(注) 上記(6)の資格により出願する方は、事前に資格審査を行いますので、前期日程は平成27年7月3日（金）、後期日程は平成27年11月20日（金）までに、次の書類を提出してください。

- ① 資格審査申請書（所定の様式がありますので、4.(2) 信州大学大学院人文科学研究科入試事務室へ連絡をしてください。）

- ② 最終出身校の成績証明書（厳封されたもの）及び卒業証明書
- ③ 返信用封筒（長形3号の封筒に392円分の切手を貼り、受信場所等を明記してください。）

審査結果は、前期日程は7月17日（金）までに、後期日程は12月18日（金）までに本人あてに通知します。

4. 出願手続

(1) 出願期間

- ・前期日程 平成27年 7月21日（火）～ 7月29日（水）消印有効
- ・後期日程 平成28年 1月 4日（月）～ 1月12日（火）
17時までに必着（厳守）

受付時間は8時30分から17時までとします。ただし、土曜日、日曜日及び祝日は受け付けません。

（注）郵送の場合は、前期日程は7月29日（水）の消印があるものは受け付けます。

後期日程は1月12日（火）の17時までに必着とします。

(2) 出願書類提出先・問い合わせ先

信州大学大学院人文科学研究科入試事務室

〒390-8621 松本市旭3-1-1 信州大学人文学部内

TEL (0263) 37-2236

(3) 出願書類

志願者は、次の書類等を取り揃え出願期間内に提出してください。郵送する場合は、「**書留速達郵便**」としてください。

◆ ○印は、本研究科所定の様式を用いてください。

○	入 学 願 書	所要事項を記入し、写真(裏面に氏名を記入)を貼ってください。
○	受験票・写真票	所要事項を記入し、写真(裏面に氏名を記入)を貼ってください。
	成 績 証 明 書	出身大学又は最終出身学校の学長（学部長）等が作成、厳封したものを提出してください。
○	研 究 計 画 書	卒業論文等従来の研究主題と、その概略及び入学後の研究計画を記入してください。（2,000字程度）
○	自 己 申 告 書	志願者の能力、適性を審査するのに役立つと考えられる資料等のリストを記入してください。
○	受 験 承 諾 書	出願資格（ハ）に該当する方は提出してください。
	在 職 証 明 書	出願資格（ロ）の方のみ提出してください。
	卒 業 証 明 書	最終出身学校の卒業証明書又はこれに代わるものを提出してください。

○	入学検定料納付 確認書 (A票)	<p>① 入学検定料30,000円をこの募集要項に添付する振込依頼書 (C票) を使用して、前期日程については平成27年7月14日 (火) から7月29日 (水) までの間に、後期日程については平成27年12月18日 (金) から平成28年1月12日 (火) までの間に、金融機関から「電信扱い」で振り込んでください。振込みには、別途振込手数料が必要です。</p> <p>なお、郵便局 (ゆうちょ銀行) からの振込みはできません。</p> <p>また、ATM (現金自動預支払機)、携帯電話及びパソコンからの振込みは行わないでください。</p> <p>② 振込み後、納付確認書 (A票) 及び領収書 (B票) を受け取り、A票、B票の所定欄に金融機関の収納印があることを確認し、納付確認書 (A票) を提出してください。</p> <p>また、「取扱金融機関収納印」欄には、出願期間最終日までの収納印があるものに限り有効となりますので、特に出願期間最終日に振り込まれる場合には、金融機関の窓口での受付時間を確認のうえ行ってください。</p> <p>③ 出願期間最終日に持参により提出する方で、金融機関の窓口業務取扱時間内に振込みができなかった方に限り、現金による納付を受け付けます。</p>
○	受験票送付用封筒	郵便番号、住所、氏名を明記し、372円分の切手を貼ってください。
○	あて名票 2枚 (合格通知書等送付用)	志願者の郵便番号、住所、氏名を記入してください。

5. 選 抜 方 法

小論文、面接試問の結果及び提出書類の記載事項等を総合して判定します。

(1) 試験科目・日時

前期日程

平成27年9月17日 (木)

小論文 9:30~11:30

面接試問 13:30~

後期日程

平成28年2月 4日 (木)

小論文 10:30~12:30

面接試問 14:00~

※ 過去の試験問題をご覧になりたい方は、入試事務室にお問い合わせください。

(2) 試験場所

信州大学大学院人文科学研究科 (信州大学人文学部内)

松本市旭3-1-1

6. 合格者の発表・入学手続期間

(1) 前期日程は平成27年9月25日 (金) 10時、後期日程は平成28年2月10日 (水) 10時、大学院人文科学研究科 (人文学部) 構内掲示板に掲示するとともに、同日中に合格者に対し合格通知書を発送します。

(2) 入学手続の詳細については、合格通知書に同封してお知らせします。

(3) 入学手続期間は、**前期日程、後期日程とも平成28年2月26日 (金) から3月4日 (金) まで**とします。なお、持参による受付時間は、8時30分から17時までとし、土曜日及び日曜日は取り扱いません。

また、郵送による場合は、3月4日 (金) の17時までに**必着 (厳守)**とします。封筒

の表に「大学院入学手続書類在中」と朱書して「書留速達郵便」で送付してください。

7. 注 意 事 項

- (1) 提出した書類の記載内容の変更は認めません。ただし、受信場所を変更した場合は届け出てください。
- (2) 出願書類に虚偽の記載があった場合は入学許可を取り消します。
- (3) 受理した出願書類及び検定料は、どのような理由があってもお返しできません。
なお、検定料を誤って二重に振り込んだ場合又は振り込んだが本学に出願しなかった（出願書類等を提出しなかった又は出願が受理されなかった）場合は、本人の請求により納入された検定料（二重に振り込んだ場合は重複して納入された分）の返還が可能です。返還手続については、本学のホームページ（入試情報／大学院入試／入学検定料返還手続）をご覧ください。（<http://www.shinshu-u.ac.jp/admission/>）
- (4) 官公庁、会社等に在職中の方は、入学に当たって、所属長又は代表者の承認を得てください。
- (5) 試験期間中は、必ず受験票を所持してください。

8. 納付金の納入等

- (1) 納付金（入学料・授業料）の額

ア 入学料	282,000円		
イ 授業料	（前期）	267,900円	（後期） 267,900円

（注）金額は平成27年4月現在のものです。入学時及び在学中に入学料・授業料が改定された場合には、改定時から新入学料・新授業料が適用されます。納付金の額及び納付の方法については、合格通知書に同封しお知らせします。
- (2) 既納の入学料は、どのような理由があってもお返しできません。
- (3) 入学料及び授業料の納入が著しく困難な方には、免除制度、徴収猶予制度及び月割分納制度（授業料のみ）があります。希望される方は合格通知書に同封される入学料免除及び授業料免除等の関係書類をよく読んで願い出てください。

信州大学大学院人文科学研究科（修士課程）案内

1. 目的

信州大学大学院人文科学研究科は、人文諸科学の広範囲な学問領域が相互に緊密に協力し、文化の本質と構造、その多様性と普遍性、その他文化にかかわる種々の問題を、比較論的・学際的・総合的に研究し教育することを基本目標とする。このような目標のもと、文化について広い視野と高い識見をもち、着実にして真摯な研究態度を身につけ、専門的能力と豊かな人間性を備えた高度な職業人の養成を目的とする。

2. 教育組織・内容

本研究科に地域文化専攻及び言語文化専攻の2専攻を置く。

(1) 地域文化専攻

文化の地域的多様性に関して、地域社会、国家社会、文化圏それぞれの次元から、通時（歴史）的視角と共時（同時代）的・比較論的展望のもとに、学際的・総合的な研究と教育を行う。なお、言語文化専攻の授業科目も履修することができるので、言語文化に対する視野をも拡大することができる。

(2) 言語文化専攻

言語ならびに記号や表象を媒体とした文化に関して、個別の言語研究と文学研究を行うのみならず、比較・対照研究や総合研究を導入した、より高次元の言語文化の研究と教育をも行う。なお、地域文化専攻の授業科目も履修することができるので、人間学的・社会的視座と歴史的展望をもつことによって、言語文化の研究を補強することができる。

3. 履修方法

学生は、入学時に研究テーマを決め、そのテーマに即して、指導教員（正・副）の指導により、後掲の表の中から履修する授業科目を選択します。

本研究科に2年以上在学して所定の単位を取得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した方には、修士（文学）の学位が授与されます。

4. 教育職員免許状

すでに社会の中学校教諭一種免許状を有している方は、所定の単位を修得すれば、社会の中学校教諭専修免許状を取得できます。また、すでに地理歴史、公民の高等学校教諭一種免許状、国語・英語・ドイツ語の高等学校教諭一種免許状（中学校教諭一種免許状）を有している方は、所定の単位を修得すれば地理歴史、公民の高等学校教諭専修免許状、国語・英語・ドイツ語の高等学校教諭専修免許状（中学校教諭専修免許状）を取得できます。

5. 授業科目・単位数及び担当者

次ページの授業科目の中から、教員の指導により専攻別に必修科目（※印）12単位を含めて30単位以上を修得します。大学院設置基準第14条による特例（授業時間は、勤務条件等を考慮し、通常の授業時間帯及び通常の授業時間帯以外の特定の時間又は時期に設けます。）による教育の実施を希望する方は、合格発表後、速やかに指導教員（予定）と面談し、今後の研究・学習計画等について相談してください。

◎ 注意 授業科目及び担当者は、追加・変更等があります。

地域文化専攻			言語文化専攻		
授業科目	単位	担当者	授業科目	単位	担当者
※地域文化論 A	4	共同開講	※言語文化論 A	4	共同開講
※地域文化論 B	4	共同開講	※言語文化論 B	4	共同開講
※地域文化総合演習 I A	4	共同開講	※言語文化論 C	4	共同開講
※地域文化総合演習 I B	4	共同開講	※言語文化論 D	4	共同開講
※地域文化研究指導 I A	2	指導教員	※言語文化総合演習 I A	4	共同開講
※地域文化研究指導 I B	2	指導教員	※言語文化総合演習 I B	4	共同開講
※地域文化研究指導 II A	2	指導教員	※言語文化総合演習 I C	4	共同開講
※地域文化研究指導 II B	2	指導教員	※言語文化総合演習 I D	4	共同開講
地域文化総合演習 II A	4	共同開講	※言語文化研究指導 I A	2	指導教員
地域文化総合演習 II B	4	共同開講	※言語文化研究指導 I B	2	指導教員
欧米思想研究 I	2	篠原成彦	※言語文化研究指導 I C	2	指導教員
欧米思想研究 II	2	篠原成彦	※言語文化研究指導 I D	2	指導教員
倫理思想研究 I	2	三谷尚澄	※言語文化研究指導 II A	2	指導教員
倫理思想研究 II	2	三谷尚澄	※言語文化研究指導 II B	2	指導教員
比較思想研究 I	2	護山真也	※言語文化研究指導 II C	2	指導教員
比較思想研究 II	2	護山真也	※言語文化研究指導 II D	2	指導教員
東洋思想研究 I	2	早坂俊廣	言語文化総合演習 II A	4	共同開講
東洋思想研究 II	2	早坂俊廣	言語文化総合演習 II B	4	共同開講
実験心理学研究 I	2	今井章	言語文化総合演習 II C	4	共同開講
実験心理学研究 II	2	高瀬弘樹	言語文化総合演習 II D	4	共同開講
認知心理学研究 I	2	今井章	日本文学研究 I	2	渡邊匡一
認知心理学研究 II	2	高瀬弘樹	日本文学研究 II	2	渡邊匡一
社会行動研究 I	2	岡本卓也	日本文学研究 III	2	松本和也
社会行動研究 II	2	岡本卓也	日本文学研究 IV	2	松本和也
社会認知研究 I	2	長谷川孝治	日本文学研究 V	2	速水香織
社会認知研究 II	2	長谷川孝治	日本文学研究 VI	2	速水香織
臨床社会行動研究 I	2	清水健司	日本語学研究 I	2	山田健三
臨床社会行動研究 II	2	清水健司	日本語学研究 II	2	山田健三
地域社会学研究 I	2	茅野恒秀	日本語学研究 III	2	白井純
地域社会学研究 II	2	茅野恒秀	日本語学研究 IV	2	白井純
経験社会学研究 I	2	辻竜平	日本語学研究 V	2	沖裕子
経験社会学研究 II	2	辻竜平	日本語学研究 VI	2	沖裕子
言語情報研究 I	2	未定	日本語学研究 VII	2	石神照雄
言語情報研究 II	2	未定	日本語学研究 VIII	2	石神照雄
社会情報研究 I	2	佐藤広英	日本語教育学研究 I	2	坂口和寛
社会情報研究 II	2	佐藤広英	日本語教育学研究 II	2	坂口和寛
情報経営研究 I	2	水原俊博	インターンシップ海外日本語教育実習	4	沖裕子
情報経営研究 II	2	水原俊博	比較文学研究 I	2	澁谷豊
認知情報研究 I	2	菊池聡	比較文学研究 II	2	澁谷豊
認知情報研究 II	2	菊池聡	比較文学研究 III	2	野津寛
日本史研究 I	2	山本英二	比較文学研究 IV	2	野津寛
日本史研究 II	2	山本英二	比較文学研究 V	2	澁谷豊
日本史研究 III	2	大串潤児	比較文学研究 VI	2	野津寛
日本史研究 IV	2	大串潤児	中国文学研究 I	2	氏岡真士
地域文化史研究 I	2	笹本正治	中国文学研究 II	2	氏岡真士
地域文化史研究 II	2	笹本正治	中国文学研究 III	2	氏岡真士
地域文化史研究 III	2	佐藤全敏	中国文学研究 IV	2	氏岡真士

地域文化史研究Ⅳ	2	佐藤全敏	中国語学研究Ⅰ	2	伊藤加奈子
世界史研究Ⅰ	2	黒田祐我	中国語学研究Ⅱ	2	伊藤加奈子
世界史研究Ⅱ	2	久保 亨	西欧文学研究Ⅰ	2	株丹洋一
世界史研究Ⅲ	2	久保 亨	西欧文学研究Ⅱ	2	株丹洋一
世界史研究Ⅳ	2	佐藤真紀	西欧文学研究Ⅲ	2	鎌田隆行
世界史研究Ⅴ	2	黒田祐我	西欧文学研究Ⅳ	2	鎌田隆行
世界史研究Ⅵ	2	佐藤真紀	西欧文学研究Ⅴ	2	吉田正明
世界史研究Ⅶ	2	豊岡康史	西欧文学研究Ⅵ	2	吉田正明
世界史研究Ⅷ	2	豊岡康史	西欧語学研究Ⅰ	2	磯部美穂
世界地域研究Ⅰ	2	豊岡康史	西欧語学研究Ⅱ	2	磯部美穂
世界地域研究Ⅱ	2	豊岡康史	比較言語研究	2	磯部美穂
			英語学研究Ⅰ	2	伊藤 盡
			英語学研究Ⅱ	2	伊藤 盡
			英語学研究Ⅲ	2	加藤鉦三
			英語学研究Ⅳ	2	加藤鉦三
			英語学研究Ⅴ	2	花崎美紀
			英語学研究Ⅵ	2	花崎美紀
			英語学研究Ⅶ	2	村田 明
			英語学研究Ⅷ	2	村田 明
			英米文学研究Ⅰ	2	杉野健太郎
			英米文学研究Ⅱ	2	飯岡詩朗
			英米文学研究Ⅲ	2	杉野健太郎
			英米文学研究Ⅳ	2	杉野健太郎
			英米文学研究Ⅴ	2	飯岡詩朗
			英米文学研究Ⅵ	2	飯岡詩朗
			芸術研究Ⅰ	2	濱崎友絵
			芸術研究Ⅱ	2	濱崎友絵
			芸術研究Ⅲ	2	金井 直
			芸術研究Ⅳ	2	金井 直
			芸術研究Ⅴ	2	北村明子
			芸術研究Ⅵ	2	北村明子
			言語文化特殊研究Ⅰ	2	近藤富英
			言語文化特殊研究Ⅱ	2	近藤富英
			言語文化特殊研究Ⅲ	2	橋本純一
			言語文化特殊研究Ⅳ	2	橋本純一

※ 個人情報の利用について

信州大学における入学者選抜を通して取得した個人情報については、入学者選抜のほか、次の目的のために利用します。

- ① 入学手続
- ② 学籍管理
- ③ 学習指導
- ④ 学生支援関係業務
- ⑤ 入学者選抜方法及び大学教育改善のための調査・研究

なお、調査・研究及び結果の発表に際しては、個人が特定できないように処理します。